

第7回 千曲市食料・農業・農村政策審議会
議 事 録

日 時：平成23年3月2日(水) 13:30～

会 場：千曲市役所 上山田庁舎 301 会議室

出席者：村山会長、橘田副会長、関口委員、北村委員、西村委員、山本委員、三井委員
荻原委員、瀬在委員

欠席者：寺澤委員 渡島委員

議 題：千曲市食料・農業・農村基本計画（案）に関して

1 開会

2 会長あいさつ

村山会長よりあいさつ

3 議 事

(1) パブリックコメントの結果について

- ・ 事務局より報告

【報告】パブリックコメントを2月10日から2月25日まで市報2月号、市ホームページにて実施したが、意見は特に寄せられなかった。

村山会長 パブリックコメントについて意見が出なかったことについて、計画に特に手を加える点がなかったこと、市民の関心が薄かったという可能性が考えられる。いずれにしても、計画素案をそのまま計画案とすることにしたい。

(2) リーディングプロジェクトの追加について

- ・ 資料に沿って事務局より説明
- ・ 質疑応答については以下の通り

村山会長 本文についてはリーディングプロジェクトの追加に伴って変更されるのか。

事務局 本文とリーディングプロジェクトの整合を取るように「期待される取り組み」を若干変更したい。

橘田副会長 資料編の用語解説について、用語の欄はもっとフォントを大きくしたほうが見やすくよい。

村山会長 用語解説と要綱についても目次に反映したほうがよい。

事務局	頂いたご意見のとおり修正したい。
村山会長	その変更は、会長と事務局に一任していただけるか。
一同	異議なし。

(3) 基本計画の答申について

- ・ 事務局より説明

■答申日時について：3月 23日 15：00～ 更埴庁舎にて

- ・ 質疑応答は特になし

5 その他

- ・ 市民農業学校、「食と農のシンポジウム」について

事務局より説明

- ・ その他について計画策定を通しての感想等は以下の通り

橘田副会長	今朝の新聞で、農業者の6次産業化支援に関する法律が施行されたとの報道があった。こういった新しい法律にも対応したいという気持ちも出てくる。
村山会長	リーディングプロジェクトに関しては今回の計画以外にも、社会情勢の変更に対応して、臨機応変に展開していくことも必要だろう。
委員	次年度、県の食料・農業・農村基本計画が策定される。県の計画が後から作られるようになるが、県の計画と市計画の整合が取れるかが、心配なところがある。
委員	計画の期間に関しては社会情勢の変化に合わせて見直しを行うとしている。今後、国の政策や農業のしくみに変化があった場合は見直しの必要がある。
幹事長	もちろん、計画の運営は見直しを含めて社会情勢にあわせて行ってきたい。
委員	我々は農業生産法人を起業した際、さまざまな苦労があったが、本計画のような施策を実行することで、土地集めなどさまざまな手助けとなると考えられる。 今後は、策定した計画をより広く市民に浸透させることが重要となるだろう。
委員	これまでの経験からも、市民に浸透させることは大変なことだと思っている。ちなみに、この計画の配布部数はどのように計画しているか。
事務局	現在は未定だが、策定後、行政として市民に広く周知したい。具体的には

	ホームページへ掲載やダイジェスト版の作成や広報、説明会の開催などを考えている。
委員	11月のシンポジウムについて、市民が集まるいい機会なので、ホールであんずやユメセイキなどを販売してはどうか。
事務局	検討したい。
委員	市民農業学校は6組とあるが、1区画はどれくらいか。
事務局	正確には回答できないが、10～15㎡くらいとれると考えている。
委員	住宅地に草が覆い茂った空き地はたくさんある。市民農園はこのような土地を活用して、今後さらに推進してほしい。
村山会長	市民といってもどれくらいの規模なのかによって、全くレベルが変わってくる。10aくらいのものを手がけたいという人から、1aでも広すぎる人まで対応できるよう、様々なクラスを用意してはどうか。
委員	事務局の負担というのもあるので、難しいところもある。すべて、行政がやるのは大変だと思う。
村山会長	たしかに、行政だけでは負担が大きいので、市民を巻き込んで運営できるしくみを考えなければならない。
委員	会長のおっしゃるとおりで、市民がもっと積極的に動いていかななくてはならない。
村山会長	市民を動かすために、個々をグループにしていく必要がある。例えばNPOなどがあるが、そのほかに集落というものに注目している。集落レベルでの取り組みのモデルをつくっていくことが計画の運営のポイントになるのではないかと個人的に思っている。
橘田副会長	市民農園については農業委員会でも議題になるが、荒廃農地を人に貸したいという人がなかなかいない。農業委員会でも今後、荒廃農地の調査を行っていく。
委員	数年前会社を立ち上げた。農産物加工をおこなったが、経営的に大変難しかった。市民の農業への参加には、①自分で食べることを目的とした「自給的な参加」、②販売をおこなうが、それで生計を立てようとする「副業的な参加」、③農業を生業としようとする「主業的な参加」が考えられる。「自給な参加」については、スーパーに様々な食材がありふれている時代に農業に取り組み食べ物をつくるひとがそれほど増えるとは考えにくい。農業に取り組みることが、せめて「副業的な参加」として成り立つようにしなければならない。そのためには、販売経路の開拓が重要だと感じる。また、様々な支援制度を知らない人が多いのが現実なので、こういった制度を広めて、活用していくよう運営しなくてはいけない。

委員

農業体験について、昨年あんずの農業体験の受け入れを行った。農業体験の中で子どもたちにとっても貴重な体験になると感じた。

村山会長

1年間いろいろとご意見を頂いた。これにて、本計画の最終案として答申したい。

6 閉会

橘田副会長より閉会の挨拶

以 上